

JSAPD 公開セミナー 2023

タイトル

歯周組織再生療法の現在と未来 最新の臨床データから見てくること

抄録

歯周組織再生療法が登場してから、40年が経過した。その間、様々な治療方法、テクニック、バイオマテリアルが開発されてきた。近年、我が国では、繊維芽細胞増殖因子(FGF-2)の登場で、歯周組織再生療法に大きな変化が生じてきている。これまでは、欧米からのエビデンスを評価し、診断から治療までを行なってきたが、FGF-2に関しては、日本発の臨床データを評価することで、適応症や治療効果の評価を行う必要がある。

日本国外においては、40年間に蓄積された臨床データにより、長期予後データが見られるようになり、歯周組織再生治療の長期的な安定性が見直されている。日本国内外、双方の情報にアクセスできる日本の臨床家にとって、歯周組織再生療法をどのように日常臨床応用するのか、をディスカッションしていきたい。